



八王子盲学校だより



令和4年12月発行 第4号

東京都立八王子盲学校長 安田 咲登子

褒めることは ともに喜ぶこと

校長 安田 咲登子

実り多き2学期には、何かを達成したとき、報告の練習をするときなど、様々な場面で「校長室」という場所を利用してもらいました。それは、担任の先生方のちょっとした指導の工夫だと捉えています。先生方は大体、校長室のドアの外でコソコソと「せりふ」をリハーサルして送り出してくれます。小学部1年生は、持久走大会に向けて練習を重ねた成果として「グラウンドを100周走ったので、カードに特別なシールを貼ってください」と笑顔でやってきました。また、小学部2年生は、掛け算九九のテストの一貫として「8の段を言います。聞いてください」と、難しい8の段をスラスラと披露してくれました。中学生、高校生の卒業学年の皆さんには、進路に向けて面接練習の仕上げを担当しました。志望動機、今まで頑張ったこと、将来の夢など、予想される質問に対し、それぞれが真剣に自分と向き合い、考えたことを自分の言葉で話してくれました。練習ではありますが、緊張している様子がひしひしと伝わりました。さらに、2学期は様々な大会参加があったので、その報告もありました。なかでも、中学部、黒田先生と高等部専攻科2年、菊島さんは、ブラインドサッカー日本代表として出場した、アジア・オセアニア選手権(開催地:インド)で男女それぞれ日本代表の得点王になったということで、大きなトロフィーを持って報告に来てくれました。おめでとうございます。

発展途上の子供たちにとって、大人は皆、学習教材です。企画室の職員にもインタビューしたり、質問したりする機会もたくさんあります。給食の調理員さんが働く姿も勉強になります。多くの人と関わりながら、自分の言いたいことを伝えたり、褒められたりすることは貴重な体験です。冬休みには、親戚の方々への挨拶や家庭の仕事分担など、褒められる機会がたくさんあります。小さな頑張りをたくさん褒めていただければと思います。

即除日起講(即ち除日に講を起こす)

副校長 能瀬 圭介

2学期が終わります。1日も学校を休まなかった人、勉強を頑張った人、運動を頑張った人、行事を頑張った人、目立たなくても一生懸命にやり、自分でやったと言える人は素晴らしいです。そして冬休みの過ごし方は?新たな目標を立てる時に「正月になったら・・・」「3学期こそは・・・」と思っている人が多いと思います。そういう人に「即除日起講」という言葉を贈ります。

これは江戸時代の林羅山という人の言葉です。羅山の弟子が大晦日に「先生、来年からぜひ学問を教えてください」と頼みに行くと、羅山は「なぜ来年から?どうして今から始めない?」とその日から勉強を始めさせたという話です。目標を立てることは大切なことですが、本当にやる気があるのなら、今すぐにその場で実行してください。サッカーの日本代表選手がベスト16で負けた時「すぐに4年後の次の大会を見据えて頑張る」と言っていました。私も見習います。

中学部 2学期の行事を振り返って

主幹教諭 大越 恵仁

残暑厳しい中で始まった2学期も、まもなく終わろうとしています。2学期の中学部は各月に行事があり、生徒は行事を通じて心身共に大きく成長していきました。

9月には宿泊防災訓練がありました。地震発生時に注意することを調べるとともに発表することで、身の守り方を再確認しました。校内に宿泊することで、公共交通機関が不通となり帰宅困難が生じた場合の経験を積むことができました。10月は校外学習で「江戸東京たてもの園」や、交流会で「八王子市立館小中学校」へと、校外へ出かける機会が続きました。直接施設を見学したり、同年代の友達と直接交流したりすることで、視野が広がり深い学びにつながりました。月末の文化祭の舞台発表では生徒7人が協力して日頃の練習の成果を生かし、素晴らしい劇を演じることができました。多くの方から賞賛の言葉をいただきました。11月は職場体験を経験しました。訪問する施設先調べの事前学習やお礼状作成の事後学習を含めて、「働く」ことや「人の役に立つ」ことの大切さについて有意義な学習とすることができました。12月は持久走記録会へ向けて、目標をもつことや目標の達成に向けて継続して努力することの大切さを学びました。

生徒はそれぞれの行事を経験したことで、その後の様々な学習に自信をもって臨めているように感じられます。広い視野と積極的な意欲をもって日々の学習に取り組むことを期待しています。

高等部普通科 3年ぶりに行事が再開しました！

主任教諭 山田 智生

コロナ禍3年目を迎え、今年度は感染症対策を行いながら様々な行事に取り組んできました。その中でも一番のビックイベントは宿泊行事です。6月には3年生が静岡・神奈川方面へ2泊3日で修学旅行に、9月には1・2年生が1泊2日で山梨方面に移動教室に行きました。学校を飛び出す解放感、初めての場所での非日常感、宿泊ゆえのわくわく感、知的好奇心を満たしてくれる満足感、美味しいものをたくさん食べての満腹感など、充実した時間を過ごしました。学校に戻って来た生徒たちは皆、笑顔に満ちた表情でした。高校生活のよい思い出作りができました。また、普通科では進路に向けて、1・2年生は自己理解・自己の課題の把握のためのインターンシップ、3年生は自己実現のための受験や現場実習等に取り組んでいます。どの生徒も実習先では学校では見せない真剣な表情で仕事を体験し、実習を終えた生徒たちは少し大人になって学校に戻ってきます。そして、次の実習や将来に向けて、実習で見付かった課題克服に取り組めます。12月には実習報告会を行い、一人一人の取組を発表し皆で共有することで、将来についての考えを深めることができました。

いじめ防止 1行コラム

主幹教諭 深澤 陽子

「他人のものさし 自分のもものさし

それぞれ寸法がちがうんだな」

※詩人・書家の相田みつをさんの言葉です。

一人ずつ違うことが普通なんだと思い出させてくれます。



